

## 聖日礼拝説教要旨 【2012年3月11日】

### 「キリストの御名のために」

イザヤ書 第52章13節～15節  
ローマ人への手紙 第15章14節～21節

説教 岡村 恒牧師

「キリストの御名がまだ唱えられていない所に福音を宣べ伝えることであった。」(ローマ人への手紙 15章20節)キリストの使徒パウロは自分が生きる目的をはっきりと記します。「さて、わたしの兄弟たちよ。あなたがた自身が、善意にあふれ、あらゆる知恵に満たされ、そして互に訓戒し合う力のあることを、わたしは堅く信じている。しかし、わたしはあなたがたの記憶を新たにするために、ところどころ、かなり思いきって書いた。それは、神からわたしに賜った恵みによって、書いたのである。」(14～15節)あなた方に神が一体何をして下さるかを私は信じている、とパウロは言うのです。

私たちが信仰を持つ様になるのはいつでも受身であります。パウロは大胆に語り、手紙を書きますが、パウロ自身のオリジナルの言葉ではなく、神ご自身の言葉を語り伝えます。「このように恵みを受けたのは、わたしが異邦人のためにキリスト・イエスに仕える者となり、神の福音のために祭司の役を勤め、こうして異邦人を、聖霊によってきよめられた、御旨にかなうささげ物とするためである。」(16節)パウロは、自分は神に仕える者だと言うことを繰り返し告白し続けてきたのです。

キリスト教会で礼拝は、神に仕える奉仕としてとらえられます。しかし同時に、神が私たちの為に何をして下さったかを知り、喜んで受け取るのも礼拝です。礼拝の中で私たちが献金を捧げる時、〈感謝と献身のしるし〉と言う言葉を使います。パウロは言うのです。神の働きの中に身を引きいれていくと、神の救いと無関係であった者が神の御旨にかなう捧げ物になる。それぞれが置かれた場所で主イエスに仕える者として生かされるのです。あなた方は世の光、地の塩であると聖書は宣言します。私たち一人一人もまた、福音を証しする者として用いられるのです。

「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」(マタイによる福音書 27章46節)神のひとり子がこの私の身代わりとして十字架の上で、この叫びを叫んで下さったので、私たちはもう滅ぶことはありません。これが、聖書が語る福音です。ただこのキリストの恵み、神の救いの約束だけを語って歩けば良い。御言葉は、私たちにそう語りかけます。

礼拝をして生きるということを、この当時の人々はよく知っていました。特にローマは、あ

らゆる宗教が集められた場所です。名も知らぬ神々にさえ犠牲を捧げていた人々に、パウロは語りかけました。天地を創られた真の神は、あなた方一人一人の心の奥底までご存じだ。あなたを救うことができるお方は、ただこのお方だけだ、と大胆に語りました。テント職人であったパウロはしばしば建築用語を用いて手紙を書きました。まだイエス・キリストの名を知らない所へ行って確かな〈土台〉を据えたい、これが私の役目だ。その土台とは主イエスなのです。

「時に主はアブラムに言われた、『あなたは…わたしが示す地に行きなさい。』」(創世記 12章1節)多くの方はアブラハムの信仰の力強さに注目します。しかし〈信仰の父〉アブラハムは繰り返し失敗をしました。アブラハムは、自分の行った先にまず祭壇を築き、主の名を呼びました。礼拝が彼の人生全体を貫きます。しかし、飢饉が起こってエジプトに逃げ延びた時、祭壇を築かず、自分の命だけに気を向けて破綻を経験しました。人生の土台が祭壇＝礼拝であることを、アブラハム物語は描き出しています。そして、私たちの信仰の土台も同じなのです。

神に導かれて歩み始めた者は、その生活をどう堅く据えて歩み続けるか、単純明快です。祭壇を築いて主の名を呼び、神の言葉を聞き、神の名を呼び続ければよいのです。あなたの為に主イエスが苦しみを受け、十字架に架かり、復活され、今も生きておられ、やがてあなたの名を呼ぶために来て下さいます。この確かな聖書の約束を私たちが聞き続けるために、神は私たちをお召し下さったのです。

キリストのみ名がまだ唱えられていない所に福音が述べ伝えられ、また一人また一人この礼拝に加えられる様に神は私たちをお用い下さいます。私たちを派遣して、それぞれの場所で祝福をして下さいます。パウロはその様な信仰者の派遣を繰り返し目の当たりにしました。そして主イエスの来臨を心待ちにする者が日々起こされる様を見続けました。私たちも見ています。そして、これからも見ます。神が生きて働いておられるからです。神は今も、パウロの時代と同じ様に、いやもっと強く働いて下さるに違いない。私たち一人一人の救いを堅くし主が用いて下さいます。感謝して、喜んで、一切をお捧げして歩みたいと思います。

(記 説教要約奉仕者)